

誓いの言葉

若葉青葉の美しい季節となり、私を含めた新入生の皆様は、本日、希望と期待を胸に、この場に集われたことと思います。この度は、学ぶ機会を与えていただき、心より感謝を申し上げます。

僭越ではございますが、新入生を代表いたしまして「誓いの言葉」を述べさせていただきます。

私は、昨年度まで公立保育園の園長をしておりました。そして、この春の人事異動で、児童発達支援事業の施設長として携わることになり、より福祉について学びたいという思いが高まりました。

福祉の現場で働く方々は、利用者の利益を最優先に考えている方が多いと感じています。私もその一人です。教え子が成長して保護者となり、その姿を見せてくれると喜びもひとしおです。大変やりがいがあり、責任の重い仕事ですが、保育者の社会的地位はまだ低く、人材も不足しています。

また、現場の保育ニーズは年々多様化し、複雑になっています。特に近年、子育て支援と謳われつつも、未満児保育、延長保育の拡大等により、保護者や職員も心のゆとりがなくなっているように思われます。

一方で、以前より社会に向けて、理論に基づいた形で保育を語れるようになりたいという思いがあり、現場で実践を積むことに加えて、福祉についての幅広い知識による裏付けが必要であると考えていました。

そのためには、まず自分自身が行動を起こさなければいけないと考え、大学入学を決意しました。

日本福祉大学で学ぶことにより、福祉制度を理解し、現場で直面する問題解決の糸口としたり、マネジメント能力を身に付け、保育者同士が高め合える組織を築き上げたりしたいと思います。さらには、本学での学びを生かし、現在の児童発達支援の職場において、育てにくさを感じている保護者の方々との相談の機会で、相談援助の実践力を高めていきたいと思えます。

仕事と家庭の両立に加え、介護をしながらの通信教育は、なかなか厳しいものですが、ここにおられる皆様も同じような境遇の中で、学ぶ意欲を持ちこの開講式を迎えられているものと思います。

年齢、経歴に関係なく、目標を持って学ぶ楽しさを分かち合う仲間がいることを心の支えとして、前向きに楽しく学びを深めていきたいと思えます。

以上を、私の誓いの言葉といたします。

2019年5月18日

日本福祉大学 通信教育部

新入生代表 竹内 孝江